

# 洛友会会報

京都府京都市左京区山科  
本郷大学工学部  
田舎教室  
吉野系  
区大友  
左京系  
京大友  
都大友  
京大友  
電系友  
洛友会

## 洛友会総会雑感

副会長 大谷泰之

本年も五月から六月にかけて本部と各支部で総会が開かれたが、筆者は六月七日に本部と関西支部、六月十四日に東北支部、六月二十日に四国支部の各総会に出席させて頂いた。それら総会の記事は別稿を見て頂くことにして、茲では筆者の雑感を述べてさせて頂きたい。

先ず本部の総会では、お元気で出席された会長松田先生から(会勢として)居所判明会員総数が約五千名に達し、本会が益々充実発展していることは誠に同慶の至りであるとの挨拶があった。又常任幹事の近藤先生から会費納入状況は平均六十四%に達しており、これは創立三十周年に発足した会員名簿事務電算化の効果の現われの一つであるとの報告があった。筆者の知っている範囲の同窓会の中で、洛友会程、会の基盤が確立

し、益々整備充実発展している同窓会は他に例を見ないと確信しているが、これは全く諸先輩の努力と多くの役員の皆様の協力のお蔭であることは勿論であり、更に又本部事務局を引受けて頂いている応用科学研究所理事長近藤先生と常務理事竹村氏等の本会の常任幹事の皆様の献身的なご努力の賜ものと心から感謝している。

次に本部総会と同日に開かれた関西支部総会において同支部行事の一つとしての家族見学会は、バス六台で申込を締切ったという盛況であったこと等の報告があった。何でも東京支部の旅行会、見学会、その他色々な趣味の会やグループの会等多様な活動状況を毎年お伺いしているが、何れにしてもこれらの有意義な行事活動を進めておられる各支部役員の皆様には頭の下る思いで一杯である。

更に東北支部と四国支部の総会に松田先生に代って出席させて頂き、当日ご出席の皆様にも久し振りでお会いできたことは嬉しい限りであった。四国支部では特にお元気な諸先輩にお会いできたが、本部顧問で大正十二年卒業で、本年八十六歳の渡辺兼雄先輩は、今でも月三、四回は名門の志度ゴルフ場でプレーされている由承った。又昭和八年卒の阿部要先輩には総会の翌日ゴルフのお伴をさせて頂いたが、瀬戸内の海を見下せる立体的なコースの多い志度の難しいコースを百以下のスコアでラウンドされるというお元氣さ、又昭和十年卒の藤本悟郎先輩からはテニス、ゴルフ、車の運転、それに果樹園の栽培など若い者そのものの毎日の様子を伺うことができた。

その他現役の若い方々からも勿論、夫々の重要なお仕事に頑張っておられる様子を伺うことができたが、松田先生を頂点として各年代の皆様が心身共に健康なパワーこそ、洛友会の発展の支えであり、又健康は生涯を通して自分自身で努力してつくっていくものでもあり、この感を一層深めた次第である。

### 教室だより

#### 教官の移動

前号のお知らせ以降、つぎのような移動がありました。

荒木 光彦

昭和61年4月16日、電気工学部二教室 助教より自動制御講座教授に昇任(昭和41年電子工学科卒)

西野 茂弘

昭和61年5月1日、電気工学部二教室 助手より京都工芸繊維大学工業短期大学部 助教に昇任(昭和45年 立命館大学修士課程修了)

三宮 信夫

昭和61年6月16日、電気工学部助教より京都工芸繊維大学工学部電子工学科光電子工学講座教授に昇任(昭和37年電気工学科卒)

### 総会・支部だより

#### 昭和61年度 洛友会 総会

昭和六十一年度総会は、去る六月七日(土)京都新ミヤコホテルにおいて午後三時より行われた。今年の総会開催地が地元で行われたので、ご高齢ではあるが、ます

ますお元氣な松田会長をお迎えして開催されたことは我々にとって喜ばしいことであり、また、八年間の福井高専校長をご退任になり、久振りで古巣の京都へお帰りになった大谷副会長もご出席になり、総会に錦上添花を添えていただいたことも併せて会員各位にご報告申し上げます。

まず、近藤幹事司会のもとに、松田会長のお元氣なご挨拶の後、同幹事より、昭和六十年度事業報告及び昭和六十一年度事業報告に役員改選案件についての説明があり、引続いて竹村幹事より昭和六十年度決算の説明、池上幹事より同監査結果の報告があり、次いで竹村幹事より昭和六十一年度予算案の説明があった。以上各案件を審議の結果、それぞれ原案どおり可決されました。

なお、六十年度決算、六十一年度予算については、別表をご参照ください。引続いて、本会の副会長でもある高木教授から教室の近況についての報告がなされました。その内で、特に注目を引いたことは、従来イオン工学研究分野においての研究は、クラスターイオン工学領域(山田公教授)で運営されていたのが、今回、外人学者客員部門(イオン工学的新材料開発領域)が新規に開設されたことである。

このことは、イオン工学に興味のある外人学者(教授、助教)を毎年政府の費用で家族と共に招聘し、日本の最新の技術を修得させ併せて帰国後、自校において学生の指導に供していただき、これにより実のある国際技術交流を図るといふユニークな制度で、今後日本と海外との技術交流のあり方を示すものであると注目され、興味深く拝聴した。

### 洛友会

#### 役員改選について

六十一、六十二年用名簿に記載されており洛友会役員中、左記のとおり、六月七日の本部総会において退任及び新任が承認されました。

#### 副会長

大 三 巽 良知(死亡)

#### 幹事

昭 六 古田 久一(死亡)

講大 五 立石 享三(死亡)

講大 〇 本郷 式良(退任)

講大 一 四 神戶 俊夫(新任)

#### 評議員

講大 六 井上佐一郎(死亡)

講大 二 八木 徳三(死亡)

講大 一 三 柴田 美繁(死亡)

講大 七 村松 俊雄(死亡)

昭一五 古賀 七郎(死亡)

その他の役員は、全員留任。

#### 昭和60年度収支決算

昭和60年4月1日から昭和61年3月31日まで

#### 収入の部

(単位 円)

科 目	決 算 額	予 算 額
会 費(学 部)	7,667,600	7,000,000
〃 (講習所)	756,400	600,000
預 金 利 子	289,425	300,000
広 告 掲 載 料	2,754,000	2,600,000
雑 収 入	40,300	10,000
小 計	11,507,725	10,510,000
前年度繰越金	7,217,136	7,217,136
合 計	18,724,861	17,727,136

#### 支出の部

(単位 円)

科 目	決 算 額	予 算 額
名簿編集費	15,000	10,000
〃 電算機処理費	203,122	200,000
〃 印刷費	3,500,000	3,500,000
〃 発送費	1,376,400	1,300,000
会報編集費	20,000	10,000
〃 印刷費	785,500	860,000
〃 発送費	1,480,862	1,400,000
備品費	0	0
通信費	126,010	100,000
会員原簿管理費	788,322	800,000
会 合 費	371,828	300,000
総 会 費	310,900	310,000
集 金 費	159,320	150,000
消 耗 費	354,170	320,000
旅 費	240,650	310,000
懇話会補助費	200,000	200,000
支部交付金	0	0
事務人件費	720,000	720,000
雑 費	32,010	20,000
支 出 小 計	10,684,094	10,510,000
次年度繰越金	8,040,767	7,217,136
合 計	18,724,861	17,727,136

#### 預金及び現金

昭和61年3月31日現在

信託預金	1,000,000	普通預金	489,780
定期預金	6,449,306	郵便振替	23,790
当座預金	241	現 金	77,650
		合 計	8,040,767

#### 昭和61年度収支予算

昭和61年4月1日から昭和62年3月31日まで

#### 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	60年度決算額
会 費(学 部)	7,750,000	7,667,600
〃 (講習所)	450,000	756,400
預 金 利 子	250,000	289,425
広 告 掲 載 料	100,000	2,754,000
雑 収 入	10,000	40,300
小 計	8,560,000	11,507,725
前年度繰越金	8,040,767	7,217,136
合 計	16,600,767	18,724,861

#### 支出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	60年度決算額
名簿編集費	0	15,000
〃 電算機処理費	0	203,122
〃 印刷費	0	3,500,000
〃 発送費	0	1,376,400
会報編集費	20,000	20,000
〃 印刷費	800,000	785,500
〃 発送費	1,550,000	1,480,682
備品費	0	0
通信費	120,000	126,010
会員原簿管理費	800,000	788,322
会 合 費	300,000	371,828
総 会 費	310,000	310,900
集 金 費	160,000	159,320
消 耗 費	400,000	354,170
旅 費	310,000	240,650
懇話会補助費	200,000	200,000
支部交付金	2,753,900	0
事務人件費	720,000	720,000
雑 費	20,000	32,010
予 備 費	96,100	0
支 出 小 計	8,560,000	10,684,094
次年度繰越金	8,040,767	8,040,767
合 計	16,600,767	18,724,861

#### 各支部交付金

(単位 円)

支 部	交 付 金	支 部	交 付 金
北 海 道	5,700	関 西	912,700
東 北	13,400	中 国	227,500
東 京	1,241,400	四 国	133,100
中 部	103,000	九 州	76,100
北 陸	41,000	合 計	2,753,900

関西支部総会

昭和六一年度の関西支部総会は六月七日(土)一五・〇〇より、新都ホテル「伏見の間」において、松田会長、大谷・高木両副会長ら四一名の出席を得て開催された。

総会は、藤本支部長(昭二二年)の挨拶に始まり、支部長は、「今、自分が終戦直後に大学を卒業して就職した当時のことを思うと、まことに隔世の感がある。この間、わが会員が学会産業界に果された貢献も大きいものと思われる。電気電子技術は、今後ますます重要になるであろう。支部は、いよいよ活動を盛にし、会員相互の交流親睦を深め、社会の期待に応えたい。」と述べた。



(単位 円)

昭和60年度名簿広告募集状況

支部名	件数	総額	本部収入額	支部収入額
東京	108	3,910,000	1,564,000	2,346,000
関西	55	1,990,000	845,000	1,145,000
中国	24	800,000	250,000	550,000
四国	8	300,000	0	300,000
九州	3	90,000	0	90,000
北陸	2	60,000	0	60,000
計	200	7,150,000	2,659,000	4,491,000
58年度	186	6,500,000	2,400,000	4,100,000

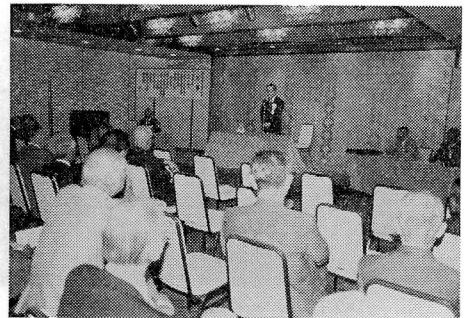
(単位 円)

昭和61年 謹賀新年広告募集状況

支部名	件数	総額	本部収入額	支部収入額
関西	13	130,000	65,000	65,000
中国	2	20,000	0	20,000
四国	3	30,000	0	30,000
本邦	3	30,000	30,000	0
計	21	210,000	95,000	115,000
60年度	20	200,000	110,000	90,000

洛友会東京支部 総会報告

例年通り、東京目黒の八芳園で昭和六十一年度東京支部総会及び懇親パーティーを開催した。好天に恵まれた六月十四日(土)午後洛友会本部より近藤文治名誉教授(昭一八卒)、田丸啓吉教授(昭三三卒)をお迎えし、支部総会を開いた。まず、老田他四郎支部長(昭二〇卒)の開会のあいさつに始まり、近藤名誉教授からあいさつ及び本部の事業報告をいただいた。東京支部は約二千名の会員(全体の%)をかかえ、ますます大きくならうとしており、今後の発展が期待されるのお話があった。そして、六十年度の行事並びに決算の報告を承認し(特に、六十年度は名簿広告活動があり、会員の協力で一〇八社三九一萬円の応募が得られた)。六十年度の新役員を選出した(日下部悦二支部長(昭二二卒)、中島達二副支部長(昭二二卒)、木戸出正継総務長(昭二二卒)、阿部保之会計幹事(昭四三卒)、幹事は各年度一名づつに縮小。引続き、六十一年度の行事計画(例、バス旅行は十月二十六日(日)の予定)及び予算計画を承認した。そして、昭和六十一年に米寿(三名)及び喜寿(十二名)を迎えられる会員の

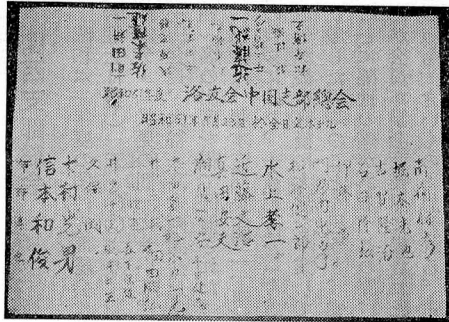


方々にお祝を贈呈した。続いて、電子工学科田丸教授より、電気系教室の近況報告をいただいた。就職状況(少しづつ関西地方に偏りつつある)、学生数増加(二二〇人から一三〇人へ)、新任教授人事、学生との交流会設置(毎年秋)などの報告があった。そして、NITT複合通信研究所釜江尚彦部長(昭三七卒)から、最近のトピックスのひとつである「OAと電気通信」についての技術講演があった。最後に日下部新支部長が六十一年度活動の抱負を述べられ、会員の方々へ、各種行事への積極参加、活発な趣味・グループ活動をお願いし、支部総会を終えた。この支部総会に先立ち評議会を開き、六十年度行事・決

続いて、真弓会計幹事代理(昭三八年)より、六〇年度実績の報告と六一年度計画の提案があり、了承された。二六〇年度は、家族見学会には予想を越える二八七人もの参加があり、ゴルフ会も春秋二回で計六三人もの参加を得、いずれも盛会であったが、囲碁・将棋・麻雀会は運営の難しい面があつて実行できなかった。会計面では、家族見学会では出費が予算をかなり上回ったが、広告収入の増加や総会経費の節減などもあつて、赤字は、予算比四万円弱にと

どまり、結局、予備費の減少は十数万円弱となった。今年には家族見学会、ゴルフ会はもちろん、囲碁・将棋・麻雀会もぜひ実現したい。このことであつた。支部総会に続いて本部総会が行われたあと、懇親会が、「陽明殿」で立食パーティー形式で行われた。松田会長のご発声による乾杯に始まり、大正六年卒の会長や大正十年講串の先輩お三人から、以下卒業年が実に六十年を越える長期にわたる会員が、時のたつのを忘れて歓談し、十八時すぎ散会した。





**昭和61年度  
洛友会中国支部総会**

当支部は、五月二十三日(金)、

算報告と、六十一年度行事・予算計画を審議し、承認した。  
支部総会終了後、会員相互の親睦を深めるため懇親パーティを開いた。電気工学科林宗明教授の飛び入り参加もあり、計八十九名の参加があった(うち、家族二名)。日下部支部長、近藤名誉教授のあいさつ、田丸教授の乾杯の音頭で始まり、懇談と食事を楽しんだ。パーティ途中では、米寿・喜寿のお礼のことは、林教授のお話などいただいた。なごやかな雰囲気でのパーティを終えることができた。  
(木戸出記)



洛友会中国支部総会 昭和61年5月23日 於 広島会館ホテル

広島会館ホテルに於て昭和六十一年度の支部総会を行った。本部より近藤先生、教室より上田先生の御出席をいただき、総勢三十五名の盛況であった。  
しかし、毎年どなたかが出席されていた電気工学講習所卒業の方が今回は全欠で、ちょびり寂しくもあった。

そうした中で、松谷支部長の藍綬褒賞受賞の報が紹介される等、明るいニュースにも事欠かない総会でもあった。総会後の宴会では、流麗なエレクトーン演奏をバックに自慢のノドを披露したり、毎年行っている寄書に筆をしたためたりで、楽しい時を過した。

**洛友会東北支部  
第21回総会報告**

**第二十一回洛友会東北支部総会**

昭和六十一年六月十四日日本部より大谷先生の御出席を戴き、秋田の阿部氏(昭二一)をはじめ九人の出席者を得て、仙台市内の仙台共済会館において開催された。  
支部長挨拶、大谷先生の近況報告の後、役員改選が行なわれ、幹事および評議員の一部変更が左記の通り行なわれた。  
なお、その他議題の中で次回洛友会東北支部総会を新潟で行なうことについて提案があり、その方向で検討することとした。

総会終了後懇親会に移り、大谷先生より松田先生の近況、終戦当時の日本の電気技術などのお話を戴き、楽しいひと時を過ぎ、時のたつのも忘れ午後八時散会した。

**記**

- 支部長 三国文治郎
- 副支部長 大家 寛
- 評議員 山崎貫三
- 川守田孝吉
- 鈴木太左衛門
- 入間田 泰
- 阿部鉄郎
- 柴谷浩二
- 伊藤貴康
- 松山隆司
- 秋山康人

**第45回洛友会関西支部  
ゴルフコンペ開催**

**ゴルフコンペ開催**

洛友会関西支部ゴルフコンペは毎年春秋2回開催され、回を重ねて61年春には45回を数えることとなりました。

第45回洛友会関西支部ゴルフコンペは昭和61年4月29日(火)武庫之台ゴルフコース(兵庫県神戸市北区道場町)において若林教授(昭26年卒)をはじめ32名の幅広い年齢層の参加を得て行なわれました。

当日は天候にも恵まれ、洛友会関西支部長の藤本一夫氏(昭21年卒)よりご寄贈いただいた大優勝カップをめぐって、日頃の鍛錬よろしく熱戦をくり広げましたが、結局、龍田峯夫氏(昭44年卒)が木村教授(昭30年卒)を一打差で振り切り優勝カップを手にし、盛況のうちに閉会となりました。  
次回第46回は昭和61年9月15日(月)敬老の日と同じく武庫之台ゴルフコースにて開催を予定しております。参加希望の方は左記の幹事までご連絡下さい。尚参加希望者多数の場合は先着順とさせていただきますので悪しからずご了承下さい。

連絡先 大阪府北区中之島3丁目 千530

**同窓会便り**

**第26回十四日会大会**

時、昭和六十一年五月十三、十四日(土・日) 伊勢・志摩 所、会員十人・准員十二人

これまで田中卓次君のお世話で昭和三十一年(二六会)と昭和四



第26回十四日会 5.61.5.13 於 横山展望台

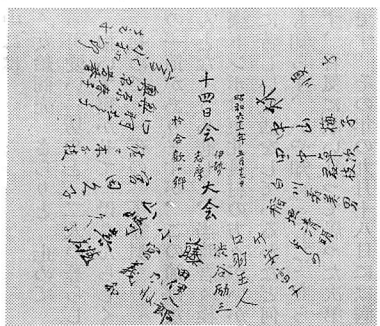
3番2号  
電話 〇六四四一八八二一  
関西電力(株)企画部  
細田純一郎(昭36年卒)  
三崎 博夫(昭40年卒)  
系統運用部  
佐々木鉄雄(昭55年卒)

十二年(十四日会)に伊勢参宮が催されたが、今回も亦同君のお世話で、老いのお別かれの参宮の機会を得た。

集合場所宇治山田駅前には、昭和六十八年式年遷宮の「お木曳き」の垂れ幕。五色の吹流しが翻っていた。すぐバスで内宮参拝。ここでも五十鈴川岸に「川曳き」の紅白の幟が立っていた。

神宮参拝後、山藤・山つつじ咲く新緑のハイウェイを横山(二〇三米)に登り、島や岬の錯綜する英虞湾の全景展望を楽しんだ。ここからバスで濱島の「合歓の郷」に着き、七十万坪の園内各所をバスで遊覧したのち、四人一組のピラハウスに分宿。夜は全員が食堂建物に集合して会食した。

開会に先立ち最近物故された吉村敏恭氏、沢山義一氏に黙祷を捧げ、併せて十四日会の首唱者一本



松珠璣氏・木津圭蔵氏以下、会の世話を下さった平井・宮田・佐々木・橋本・石川・大久保・大島・吾郷其の他諸兄を追想した。それから遅くまで会食歓談。

翌五月十四日は風が強かったが「合歓の郷」園内葎園で苺狩りの後、バスで出発。志摩パールロードを駛り行く中に雨が降出し「舟乗りする乙女らの玉裳の裾」をぬらした阿古の浦辺も的矢の海、安乗ヶ崎も見るとしもなく、お昼は浦村の竜宮城を思はず「サン浦

### 昭六会五十五周年記念の集い

昭和六年卒昭六会 青 柳 健 次

昭和五十六年私共が卒業五十年を記念して行った同窓会より早いもので本年五十五周年を迎える事になりました。五十周年の時は、ちょうど夫婦で言えば金婚式に相当するので、伊藤俊夫・上西亮二両君の企画お世話により、松田長三郎先生のご参加を得て、昭和五十六年六月六日(土)十一時より花園・妙心寺に於て、山田無門

老師(福岡君の尽力による)の読経のもと恩師、クラスメートの慰霊祭を厳粛に行つたのち、母校に戻り、近藤教授に教室のご説明を伺つた。その日、雷鳥二十三号にて、芦原温泉に一泊、六月七日(日)は東尋坊、永平寺を経て三方

鳥」の繋船の中で、海の幸のパーベキューを頂いた。午後三時、鳥羽駅で解散。名残りを惜みつつ四方に別れて行つた。

別れる前に「来年は？」に就いて、前掲の有力な十数人すでに亡く「見るべきほどのことは見つ」(平知盛入水の辭)の言葉そのまの気持であったが、口羽玉人君が来年初夏の京都鞍馬・貴船の新鮮観賞を提案され、それを楽しまに、それぞれ帰途についた。(61・5・20小宮)

町虹岳島荘一泊、六月八日(月)は三方五湖めぐりをし、その後関西電力美浜原子力発電所を見学後、敦賀駅で解散しました。その間松田先生は八十七歳の御高齢にもかかわらず、吾々と同じスピードで歩かれ一同非常に驚くとともに、先生に続けという心強い思いをしたものでした。

当日の出席者は安藤弘平、足立卓夫、伊藤俊夫、石堂剛雄、飯田一男、上西亮二、岡崎二郎、大谷宗太郎、加藤一陽、添田貫一郎、長安実、仲浜政平、西本憲三、野際幸雄、野田須二、古田久一、福岡正、町田元、榎田準二郎、柳父志朗、萩原博(昭和七年卒)青柳

健次の二十二名でした。皆非常に元気でした。年齢は平均七十三歳位でありました。なお、これに足立、西本、古田の三夫人と小生の家内が参加しましたので、松田先生を含めて、総勢二十七名の盛会となりました。

この度は、幹事は長安実君と宇野茂道君になってもらい、京都の世話は上西亮二君にお願ひしました。上西君のお世話で、鳥津製作所会館、紫明荘で五月廿五日(日)午後二時より三々集り九時頃一応散会した次第です。集つた者は伊藤俊夫、飯田一男、上西亮二、宇野茂道、岡崎二郎、鈴木蔵吉、同夫人、添田貫一郎、長安実、仲浜政平、西本憲三、野際幸雄、野田順二、福岡正、町田元、榎田準二郎、青柳健次の十七名でした。おれわれのクラスは卒業当時、四十九名でしたが、本年古田久一君の急逝により亡くなった人二十五名、生存者二十四名となり遂に半数を割ってしまいました。残念な事です。紫明荘はどなたかのお金持の御屋敷跡らしく、立派な庭園がありましたので、夕方一同揃って降り立って記念写真をとりました。写真は宇野君が撮ってくれましたが、名手による記念写真をここに御披露します。

さて松田先生をお迎えして、午後六時開宴となったわけですが、

開宴にさきだち福岡君(辨榮上人の光明主義の同人)の音頭で物故された恩師先生の方々および友人の御冥福を祈り黙祷を捧げたのち宴会に移りました。少しお酒が廻り出したころ、幹事が気を効かして美形を二人参加させましたので、老人といえども男性、大いに若返り、松田先生はご自分で、作詞・作曲された洛友会の歌を御持参、皆を指導され、お元気に歌われました。

一同も二十代の若者に戻り、卒業当時、京大校歌と言われた祇園小唄、琵琶湖周航の歌、昭六会卒業記念の歌である町田元君推奨の女給の唄、等々が盛んに飛び出して大いに楽しい一夕を過したのであります。昭六会卒業記念の歌の



中には

女給商売 さりとと 止めて  
可愛い 坊やと 二人の暮らし  
抱いて寝かせて 母さんらしく  
せめて 一夜の 子守唄  
の一節がありますが、この節はな  
んとなく悲しく、当時吾々極  
楽トンボは東北農村の方々がい  
かに苦しい生活をしているかなど  
も知らず、いや知らされておら  
ず、呑気に歌い狂って居った次第  
です。その年の九月十八日には満  
州事変が起り、日本は滅亡に向っ  
て走り出しておったわけです。昭  
和六年の頃はもはや不景気が始っ  
ておったわけですが、政府の方針  
に従って志を満州の野に得んとし  
た級友もいましたが、無事帰国さ  
れ、その後大いに発展しておられ  
るのを見て、クラスメート一同は  
大安心をした次第でした。

しかあれ、中部地方洛友会支部  
幹事の古田久一君が、出席の通知  
を出しながら一瞬にして心筋梗塞  
で亡くなられたのはショックでし  
た。

彼の出席すると葉書に書かれた  
絶筆を見て、一同世の無常をしみ  
じみ味うとともに、  
良き友よ 我亡き  
あとも噂せよ

の句の通り、いろいろと古田君な  
らびに昭六会に毎度熱心にお揃い  
で参加された奥様の事をお噂さ申

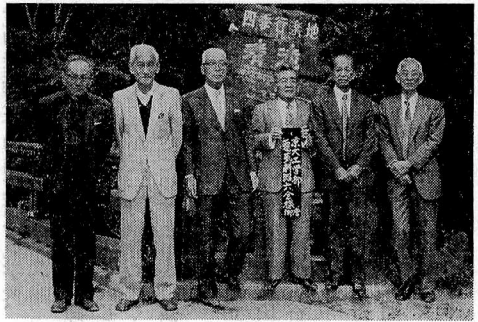
上げた次第でした。また角田高  
八君からは、退院後療養中で欠席  
するとあり「懐しき友人に思いか  
えせば会いたし、思い叶わず」と  
赤インクで書いて来て、一同ほろ  
りとなりました。

思いかえせば、昭和五十六年の  
記念会のあと、安藤弘平、大谷宗  
太郎、加藤一陽、萩原博、古田久  
一、の五氏がなくなりました。然し  
生存者二十四名中十八名の出席で  
すから三分の二の出席率です。ま  
ずまず可とすべきでしょうか。

九時過ぎになり松田先生をお送  
りしたあと各々、囲碁を久しぶり  
で戦わせるものあり、折しも映し  
出された名連統TV「いのち」等  
を見てから、自室に戻り朝を迎え  
た次第です。

朝食を済ませたのち、用事ある  
ものは、そのまま帰り、有志は懐  
しの植物園を見に行きました。私  
もお供をしたわけですが、五十年  
前の植物園に較べて、非常に立派  
になっており、一同びっくりした  
次第であります。一人が五十年前  
にこの植物園が三井からの五十万  
円の寄附ができた事を碑文により  
発見し、貨幣価値の変化に目を見  
張った次第でした。

その後宇野、添田、長安、仲浜、  
西本、野際、福岡、楨田の諸君は  
亀岡に行きそれから保津川下りを  
楽しんで後、懐しの清滝の「ます



や」で一泊して、皆無事にそれぞ  
れの家庭に帰って行きました。無  
事とここで敢えて申しますのは、  
それから二日後、保津川下り十七  
年目の事故が起り、全員ずぶ濡れ  
になった事件が起ったからであり  
ます。長安君によれば野際幸雄君  
が居り彼の「幸」の字のお蔭で助  
ったと言っていました。野際君と  
言へば、植物園で遊んでいた折  
彼が野際陽子さんの父親である事  
を知った若い女子大生の群が、野  
際君を囲み、写真を撮りワイワイ  
イっておりましたが、野際君は若  
い美人に囲まれて一人悦び入り、大  
いに皆を羨しがらせていました。  
持つべきものは美人の娘だとの結  
論に達し皆大笑いした次第です。  
最後にこの度の記念会につき非

常に骨を折ってくれた長安君から  
次の歌を寄せてきました。

懐しき学友集い楽しみぬ  
また逢う日まで清く生きなん  
最後の句は松田先生の、また逢う  
日まで強く生きなんを借用したの  
だそうです。

松田先生、どうかいつまでもお  
元気で長生きして下さい。昭六会  
の皆も先生のみ跡を慕い長生きし  
て、頑張るつもりであります。  
(昭和六十一年六月廿日青柳記)

### 事務局だより

昭和二十八年八月に洛友会会報  
が創刊されてから早や三年を経て  
、本七月号で一三六号を数え、  
発送部数も五千部を超えるまでに  
成長致しました。

これは、ひとえに洛友会役員各  
位を始め、会員諸氏のご支援、ご  
鞭撻の賜と感謝致しております  
四月号は、五千九部発送しまし  
たところ、四六通(返送率〇・九  
二%)が返送されてきました。お  
陰様で返送率がやっと一%を切り  
ました。

その後の調査で、四六名中二六  
名の方々の住所が判明致しまし  
た。残り二〇名の方を居所不明に  
登録する前に、本七月号に発表す  
る予定でおりましたが、紙面  
の都合で次号に掲載せざるを得な  
くなりました。  
掲載の際は、調査によるしくご  
協力の程お願い致します。

### 計報

講大10	増田 又市	61.1.20
大11	山口 信助	61.6.7
講大11	合田 豊作	61.3.1
講大12	堀川 延二	61.3.5
講大13	阿部泰治郎	61.1.12
大14	沢山 義一	61.4
講大14	中西 真雄	61.6.7
講大14	三原 正義	61.1.26
昭2	林 紀一郎	61.5
昭2	前田 竜作	61.2.12
講昭2	大鶴 吉蔵	60.12
講昭3	浜田 義市	61.3.30
講昭3	堀口 音次	60.12.20
講昭4	池田市治郎	61.4.26
昭7	国本 貞三	61.1.3
昭9	石川 弘文	61.4.28
講昭14	加世多喜作	60.5

以上の方々がご逝去なさいま  
した。謹んで哀悼の意を表しま  
す。

### 編集後記

男性的だった梅雨もようやくあ  
がり、京都も祇園祭りの季節を迎  
えました。会員の皆様もお元気で  
お過ごしのことと存じます。  
各支部でも、総会を無事終了さ  
れ、いよいよ本格的な活動に入  
られることと存じます。今後の  
ご活躍を切望しますと共に、よろ  
しくご支援の程を。(竹村記)